

卒業後 1 年を経て

第 5 期 OB 飯島 崇志

みなさん、お久しぶりです。エッセイを依頼され、承諾したのはいいものの、大して書くネタもなく困っています。ひとまず、現在の仕事や日々の生活について思いついたままに書きたいと思います。

2009 年 3 月、慶應義塾大学を卒業し、同年 4 月、株式会社ゆうちょ銀行に入社しました。1 ヶ月間の監禁研修生活を経て、ゆうちょ銀行甲府店に配属されました。店舗での担務は専ら窓口に立つてのお客さま対応です。毎日様々なお客さまと接し、入金や口座開設やら様々な業務をこなしています。現在の仕事で最も喜びを得られる瞬間は、お客さまから「ありがとう。」と感謝の言葉をいただいたときです。ゼミ時代では、昨今のマーケティングにおける顧客満足的重要性を学びましたが、それを肝に銘じて、自分自身の接客で顧客満足を生み出そうと努力しているわけです。もちろん不満の言葉をいただくこともありますが、不満への対処の仕方がよければ顧客満足を得られるということを思い出したりしながら、前向きに捉えるようにしています。しかし、窓口が混雑した時のお客さまの視線や、金融機関として絶対ミスできないというプレッシャーは半端ないです。体力的というよりも精神的に疲れる仕事かなと思います。といっても、仕事のせいで心が病むようなことは全くないですけどね。

さて、私は大学卒業と同時に故郷山梨に帰ってきたわけですが、帰ってきて一番感じるのは親のありがたみです。もちろん学生時代たまに家に帰った時にも親のありがたみを感じましたが、最近はその以上にありがたみを感じます。朝起きればご飯が用意されている。帰ってくれば洗濯物は片付いていて、ご飯も食べられる。そのおかげで、空いた時間は全部自由に使える。最高です。学生時代は全ての時間が自由のようなものだったわけですが、社会人はそうはいかない。限られた自由な時間を目一杯使えるってことは本当に幸せです。

また、山梨に帰ってきてもうひとつ感じることは、大学時代の繋がりの深さです。距離は離れていますが、ゼミやサークルの友達とメールや電話で連絡を取ったり、東京に行った時は一緒に飲んだり、連休には山梨に遊びに来てくれたりもして、山梨にいても全然寂しくありません。私の大学時代の友人は本当に一生の宝物です。本当に人に恵まれたなと思います。

これから東京に戻ることもあれば、そこからいろいろと転勤するかもしれません。しかし、どこに行ってもずっと付き合っていけたらいいなと思います。

最後に、こうやって今の自分の生活を考えると、恵まれた環境にいるのだなと思います。周りへの感謝を忘れることなく、これからも日々精進していき、充実した社会人 2 年目を迎えたいと思います。これからもよろしくお願ひします。



同期と久々の再会（著者は中央奥）